

ですから、処理方法については改善の工夫が必要です。また、汚水を地下に浸透させるため、地下水の汚染にもつながることがあるので注意しなければなりません。

養豚が多くなるにつれて屠場と加工場がふえてきました。土浦市では昭和三九年に茨城共同食肉センター、同四〇年にプリマム、四一年に土浦食肉協組が設立されました。霞ヶ浦流域に属する屠場は現在八事業所で、一日約三〇〇頭が屠殺されており、人間のし尿に換算して約二〇万人分の汚濁発生負荷量となります。しかし、屠場については事業所数が限られており、かつ各事業所とも一応、処理してから放流しているため、かつ体としてみた場合、霞ヶ浦汚染に対する寄与率は他排水に比して低いようです。でも、全般的に見て、必ずしも処理効果が充分でなく安定していませんので注意が必要です。

#### ◇ 魚種組成の変化

霞ヶ浦にせい息する水族は非常に多く、その種類は魚類七六種、甲殻類七種、貝類一八種と分類されています。漁獲動向としては多少の変動はみられるとしても、全体的には漸増の傾向をたどっていますが、魚種は富栄養化と関連するかのようによく変化し、ワカサギ、シラウオ、レンギョ等の高級魚が減少し、逆にこれを補うよう

に、ハゼ、フナ、エビ類が顕著に増加しています。このように水圏を遊泳する魚族が減少し、地圏に住む魚族が多くなりますと、底泥からの汚濁物質の回帰を促進しますから、霞ヶ浦の汚れを内閣から促進することになります。

昭和三八年に常陸川逆水門が建設され、水門閉鎖が行なわれるようになって、ウナギ、スズキ、ボラなど海から上ってくる魚族が影をひそめ、ヤマトシジミが生理的せい息不可能となりました。ウナギ、シジミなど経済性の高い重要水族が減少するに伴って養殖業を主体とする経営の転換が行なわれ、四〇年から網いけずが出現しました。現在、霞ヶ浦における網数は約四千面に達し、養鯉の年生産額は四千トンを超えるまでになりましたが昨年の夏には数百トンの大量死に遭遇し、世の人を驚かしました。

#### ◇ 今後の問題

霞ヶ浦総合開発事業が、水資源開発公園事業として昭和四五年より開始されました。その内容については紙数の関係で詳述することはできませんが、霞ヶ浦周辺約、六五キロの無堤及び低い築堤部に高さY、D三尺の湖岸堤を築造し、常陸利根川の水門操作により毎秒四〇トンの新規利水を開発しようとする霞ヶ浦の「水ガメ化事業」